

ユニマットコレクション

特別展 フランス近代絵画と珠玉のラリック展

特別陳列 ひく・さす・ほる 石川木工芸の現在【近現代工芸】



ピエール=オーギュスト・ルノワール
《母子像（アリーヌと息子ピエール）》1886年
—「フランス近代絵画と珠玉のラリック展」より—



川北浩彦《榲造多辺挽鉢》
—「ひく・さす・ほる 石川木工芸の現在」より—

特別陳列 前田家の名宝Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

描かれた人物 さまざまな表現【古美術】

夏休み 親子で楽しむ美術館 かお・力才・顔【近現代絵画・彫刻】

夏の優品展【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 石川の美術
- ミュージアムレポート 0才からのファミリー鑑賞会
- ミュージアムウィーク
- 文化財現地見学予告・ボランティア募集
- 8月の行事予定

第7・8・9展示室 ユニマットコレクション フランス近代絵画と珠玉のラリック展

やすらぎの美を求めて

主催：北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館
後援：石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川 協賛：東海東京証券

7月27日(土)～8月25日(日) 会期中無休

このたび「ユニマットコレクション フランス近代絵画と珠玉のラリック展―やすらぎの美を求めて―」を開催いたします。本展は現在、オフィス・コーヒー、介護、リゾートなどの事業を幅広く展開しているユニマットグループの創業者・高橋洋二氏が、長年にわたって収集してこられた西洋美術品の中から、選りすぐった精華を紹介するものです。今回は、フランス近代絵画と、アール・デコのガラス工芸を代表するルネ・ラリックの作品に焦点をあてています。アカデミズムから自然主義へと芸術家たちが革新的な表現の歩みを進めるなかで、私たちが魅了する絵画、ガラス工芸がどのように生み出されてきたのかを概観しようとする試みです。

―伝統に抗い、自然の中に生きる農民たちの姿を描こうとしたミレーやコロロ、明るい色彩で光を捉えることに尽力した印象派を代表するルノワール、明るい色彩と軽快な筆づかいで「色彩の魔術師」と称えられたデュフィ、芸術家が集うパリのモンパルナスで活動し、生前は評価の低かったモディリアーニ、同じエコール・ド・パリの画家で唯一の日本人、藤田嗣治など、新しい時代を創っていった画家たちの作品に加え、同時期に活躍したルネ・ラリックのガラス工芸も展示することで、世界の人々を魅了する激動の時代を一望していただく機会となります。
知られざる秘蔵コレクションの扉が、この夏、北陸で開かれます。

◆記念講演会

「フランス近代絵画の見方」

ユニマットコレクションを中心に

講師／岡 泰正氏(神戸市立小磯記念美術館・

神戸ゆかりの美術館館長)

日時／七月二十七日(土)午後二時から

「ルネ・ラリックについて」

講師／池田まゆみ氏(北澤美術館 主席学芸員)

日時／八月十一日(日・祝)午後二時から

◆記念コンサート

「移りゆく時代、挑戦する作曲家」

チェロ／ルドヴィート・カンタ氏(OEK名誉楽

団員、元OEK主席チェロ奏者、愛知県立

芸術大学非常勤講師)

ピアノ／鶴見 彩氏(愛知県立芸術大学非常勤講

師、桐朋学園大学院大学非常勤講師)

日時／八月十二日(月・振休)午後二時から

講演会、コンサートともに会場は美術館ホール

※先着二百名。ホール開場は三十分前から。聴講無料、

ただし本展チケットが必要です。

◆観覧料

| | 一般 | 団体／前売 |
|--------|--------|--------|
| 大人 | 一、二〇〇円 | 一、〇〇〇円 |
| 高校・大学生 | 七〇〇円 | 五〇〇円 |
| 小中学生 | 五〇〇円 | 三〇〇円 |
| 未就学児 | 無料 | 無料 |

※団体は二十名以上。友の会会員は団体料金。



ルネ・ラリック《立像「スザンヌ」》1925年



アメデオ・モディリアーニ《ルニア・チェホフスカの肖像》1919年

第5展示室

特別陳列

ひく・さす・ほる 石川木工芸の現在

7月27日(土)~8月26日(月) 会期中無休

学芸員の眼

前田育徳会尊經閣文庫分館「前田家の名宝Ⅰ」において、昭和十五年（一九三〇）初代魚住為楽作の銅鑼を展示しています。箱書きによると皇紀二千六百年を記念し、前田家十六代利為の依頼で制作した「會心の作」であり、魚住は制作工程の記録を内に納入しています。氷見晃堂にとって初めて、魚住から鉦架（銅鑼掛）の注文を請けた作品で、以降魚住の鉦架のほとんどを氷見が制作するようになりました。鉦架には、黄楊つげの木象嵌で、前田家の家紋である梅鉢などの装飾を施しており、師であった初代池田作美の影響を感じさせます。第5展示室の両者による銅鑼・鉦架（昭和二十九年作）と併せてご覧ください。



初代魚住為楽《砂張銅鑼》
（鉦掛：氷見晃堂）前田育徳会蔵

今回、第5展示室では木工芸を特集します。石川県
の木工芸は、昭和四十五年（一九七〇）、重要無形文化
財保持者（人間国宝）に認定された氷見晃堂の活躍と
尽力により、優れた技術を持つ職人たちの、作家への
道が拓かれました。当館では平成元年（一九八九）に
山中挽物、同二年（一九九〇）に金沢指物の特別陳列
を行いました。その後同六年（一九九四）に挽物の
川北良造、二十四年（二〇一二）には指物の灰外達夫
という、二名の人間国宝が生まれ、日本伝統工芸展を
はじめとする展覧会に出品、受賞する作家が相次ぎ
ました。本展は平成期に目覚ましい活躍を見せた、石
川県の木工芸作家の現在を紹介するものです。
出品作家は挽物作家から、川北良造、福田芳朗、水

上隆志、中嶋虎男、佐竹一夫、川北浩彦、中嶋武仁、佐
竹巧成の八名。指物は、灰外達夫、片岸吉明、反保信
夫、福嶋則夫の四名で、このうち福田、水上、灰外、片
岸が物故者ですが、重鎮から若手まで平成期の石川
県を代表する木工作家たちです。様々な木材の持つ
色や木目を生かし、それぞれの創意から生まれた形
や肌合いをご鑑賞ください。
前回の展示で紹介した先駆者たち、氷見晃堂、初代
池田作美、筑城良太郎、川北浩一、水上莊詠らの作品、
また他分野の作品を支える木工芸として、初代魚住
為楽の銅鑼どらと氷見晃堂の鉦架しやうか（銅鑼掛）、川北良造が
挽いた素地に、松田権六が蒔絵を施した棗も併せて
展示します。



水上隆志《櫛造拭漆盛器》



片岸吉明《桑八椀箱》

第2展示室

描かれた人物 さまざまな表現 【古美術】

7月27日(土)～8月26日(月) 会期中無休

第2展示室では、歴史上の人物を描いた肖像画を紹介いたします。肖像画といえ、まだ写真のない時代に著名な人物の姿を描いたものと思われるでしょう。しかし、同じ人物を描いた肖像画でも、描かれ方に違いがあったり、また異なる人物を描いていても、同じようなポーズで描かれていたり、描かれた肖像画にはさまざまな表現が用いられています。

江戸時代に俳諧を大成させた松尾芭蕉は、各地を旅したこと、蕉風とよばれるその作風が各地に広がり、金沢にも門下の俳人によって描かれた芭蕉像が複数伝わります。梅田年風による《松尾芭蕉像》は、道帽を被った芭蕉を写実的に描いたものですが、高田甫尺が描いた芭蕉像は、杖と網代笠を持って座す芭蕉の後ろ姿を、墨のみの単調な線で表現されて

います。

加賀藩祖である《前田利家像》もさまざま伝えられています。富山県(小矢部市)の永伝寺が所蔵する肖像画を初公開します。神としての姿でもなく、戦いに勝利した馬上の姿でもありません。脇息にもたれるといえ、《維摩居士図》や《柿本人麻呂像》が思い出されますが、こうしたポーズは、文芸的能力に優れ、高い脱俗性と叡智を持つ人物に共通し、前田利家にもそのようなイメージが重ねられていたことがうかがえます。

本特集では、あわせて江戸時代に優れた人物画を遺した矢田四如軒による肖像画や、大乘寺に伝わる頂相など、全二十六点を紹介します。



高田甫尺《松尾芭蕉像》

前田育徳会尊經閣文庫分館

特別陳列

前田家の名宝Ⅰ 【古美術】

7月27日(土)～8月26日(月) 会期中無休

今回から五回の特別陳列をとおして、(公財)前田育徳会が所蔵する国宝、重要文化財の数々を紹介します。今回の「前田家の名宝Ⅰ」では、国宝《三朝宸翰》を四年ぶりに展示します。本作は、三朝、すなわち伏見天皇・花園天皇・後醍醐天皇三代の宸翰を巻子に仕立てたものです。二巻から成り、一巻は花園天皇消息十二通、一巻は後醍醐天皇消息十通及び伏見天皇消息二通がそれぞれ収められています。消息はすべて宛所を欠いていますが、内容と本文奥にある追筆から、伏見天皇の子で花園天皇の異母弟・尊円法親王(一二九八～一三五六)に宛てられたものと考えられています。

紙背の一部に経文の跡が見られることから、天皇の追善供養のために尊円法親王が宸翰の裏に法華経

を摺写し、本作はそれを表に復したものと推定されています。中箱蓋の上書に「御箱御上書 松雲院様御宸筆」とあることから、前田家には松雲公すなわち加賀藩五代藩主・前田綱紀の時代に入ったと思われるからです。今回は、花園天皇宸翰の一卷を全巻公開します。

さらに今回は、重要文化財《武家手鑑》三帖のうちの上帖を五年ぶりに公開します。本作は、平安時代後期から江戸時代初期までの代表的武家の筆跡を集大成したもので、前田綱紀が作成したものを、前田家十六代の利為が現在の形に改編して、年代順に三帖にまとめられています。今回展示される上帖には、平忠盛・清盛・宗盛・頼盛・源義朝らの極めて貴重な自筆文書が収められています。

国宝《三朝宸翰》(部分)

第4・6展示室

夏の優品展 【近現代絵画・彫刻】

7月27日(土)～8月26日(月) 会期中無休

いよいよ、夏本番、近現代の絵画・彫刻部門では、夏にふさわしい作品と動物彫刻を特集展示します。主な作品を紹介いたします。

日本画部門では、荒木弘訓の《刻》、夏の夕空を旋回する三羽の海鳥が、翼の動きも緻密に描かれています。玉井敬泉の《白山図》は六曲一双の屏風に、雲がわきたつ白山の景色が雄大に表現され、白山を知り尽くし、国定公園(現国立公園)指定に尽力した作者の面目躍如たるものがあります。平木孝志の《磯》は岩場に蟹が集うユーモラスな作品です。

洋画部門では、まず勝本富士雄の《鋭角の雲―風景》。抽象画です。しかも雲が鋭角とは不思議なタイトルですが、雲は微細な水の巨大な集積です。水の結

晶の幾何学紋様を思い浮かべれば納得できるのではないのでしょうか。藤本東一良の《進水をまつ船》は、鹿児島島の桜島をバックに、三艘の船がシユロの木と共にダイナミックに描かれ、雲と船の白が夏を連想させます。前田さなみ《休日の肖像 南風》はサンバイザーを被ったジーンズの女性がまぶしい夏を象徴しています。

彫刻分野では、かわいらしい動物彫刻や夏を感じる人物彫刻を展示します。動物彫刻からは、津賀田勇馬《豚》を紹介いたします。本作は、母豚が子豚に乳を与えている場面で、非常に愛らしい作品です。人物彫刻からは、浴衣姿とヒョットコ面とを取り合わせた谷村俊英《祭り詩》をお楽しみください。



玉井敬泉《白山図》右隻

第3展示室

夏休み 親子で楽しむ美術館

かお・力才・顔 【近現代絵画・彫刻】

7月27日(土)～8月26日(月) 会期中無休

私たちが誰かと出会った時、私たちは、まず、顔に目を向けます。人間の顔は目や口、鼻、耳といった感覚器官が集まっているため凹凸があり、男女の違い、また子どもと大人など年齢の違いで全体のプロポーションも異なります。その人の顔を見て誰だかを判断できる、外面的な違いが現れる部分なのです。また、そうした外面的な違いだけでなく、顔にはさまざまな感情が表れます。うれしい時、悲しい時、怒っている時、私たちの表情は、ごく自然に変わり、心の動きと表情は、密接に結びついています。この表情の変化から感情や性格まで映し出し、顔がその人の魅力になっていることもあるでしょう。

美術の世界では、古代から現代に至るまで、「顔」は多くの芸術家の想像力を刺激し、様々なイメージの源となってきました。顔の形や表情の変化のおもしろさが芸術家の関心をひく場合もあれば、目に見えない人間の心を表している「心のかたち」として見る場合もあります。このように顔は長い年月を経ても表現され続け、美術の重要なモチーフとなっています。

今回の展示では、当館所蔵品の描かれた顔、彫った形作られた顔と様々な表現方法、いろいろな角度からあらわされた顔の作品に注目して紹介します。表現される顔の魅力や「心のかたち」としての、いろいろな表情をお楽しみください。



田中太郎《音色》

石川の美術 美術館創設60年のあゆみ

会期：令和元年8月31日(土)～10月7日(月)

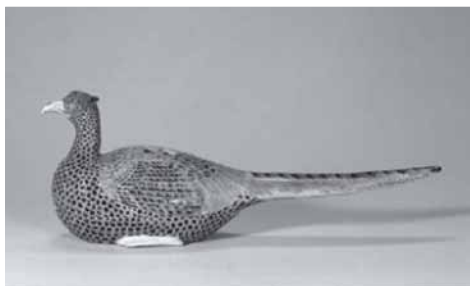
石川県立美術館は、昭和五十八年十一月にオープンして今年で三十六年ということはみなさんよくご存じかと思いますが。しかし石川の美術館の歴史はずっとさかのぼり、兼六園の石引口に昭和三十四年に開館した石川県美術館から数えて、今年六十年となります。

前年の三十三年に山川庄太郎氏から国宝色絵雉香炉の寄贈を受け、常時公開できる施設として美術館がつくられました。現在は石川県立伝統産業工芸館として展示活動を続けています。

石川県は江戸時代から前田家の文化政策のもと、文化の花が開き、その伝統は今日まで継承されています。歴史的名作の伝来に加え、作家の層も厚く、水準の高い美術工芸の盛んな地域として知られてきました。

その伝統的な芸術的個性を活かし、地方色豊かな美術館として歩んできた石川県立美術館では、この六十年の間に、収蔵作品は三千九百点を超えました。作品を所蔵していく道筋は、美術館のあゆみと重なります。石川県に伝わる名品の展示、伝統工芸展・工芸作家選抜美術展の開催にともなう工芸作品の充実。昭和五十八年の新美術館にむけて油彩画・日本画・彫刻など現代作家の作品収集と進めてきた結果、この収蔵品総数となりました。

今回の展示では、創設から六十年の節目を迎えたことを機に、選りすぐった収蔵品を通して当館の個性を示し、今日の活動として石川県文化財保存修復工房の事業成果を紹介することで美術館六十年のあゆみをご覧ください。



国宝《色絵雉香炉》野々村仁清

ミュージアムレポート

0才からのファミリー鑑賞会

令和元年5月5日(日・祝)・6日(月・振休) 実施

五月五日、六日に、秋に開催し恒例になっている「0才からのファミリー鑑賞会」を開催いたしました。十連休中の開催ながら早くからお申し込みをいただき、赤ちゃんをはじめとするご家族で美術鑑賞を楽しみました。

この鑑賞会では工芸作品を鑑賞する機会が続いておりましたが、今回は企画展示「脇田和と猪熊弦一郎展」で絵画の鑑賞を行いました。五日午後四、五才以上から小学生の子どもたち、また、六日午前は0才からの赤ちゃんを中心に集まっていたことで、鑑賞会の進め方も無理なく、また、講師の先生から子どもたちの年齢に合った鑑賞の仕方のお話しを聞くことができたことと好評でした。両日とも、どんな年齢の子どもたちもお気に入り作品を見つけ、その年齢やその子なりの楽しみ方で作品鑑賞をしました。保護者の方からは、「もっと成長したらどんなふうに鑑賞するか見てみたい」「子どもと一緒に鑑賞することで、自分自身も違った作品の見方ができて楽しい」と継続して参加していきたいとの声をたくさんいただきました。次回の開催は十二月、工芸作品の鑑賞です。



文化財現地見学予告

石川県立美術館では、毎年秋季に一泊二日の日程で、「文化財現地見学ツアー」を企画しています。第五十回の今秋は「良寛さん」(仮)と題して、次のような行程を予定しています。

◆開催日時

十月一九日(土)午前七時半頃 金沢駅発
十月二十日(日)午後六時半頃 金沢駅着

◆訪問場所

良寛生誕地(橋屋敷跡)、良寛記念館、光照寺、
良寛終焉地(木村邸・隆泉寺)、良寛の里美術館、国上寺、弥彦神社、
旧笹川家邸宅

◆移動方法

貸切バス

具体的な旅程やお申し込みについては、来月号の美術館だよりでお知らせいたします。皆さまのご応募をお待ちしております。

ボランティア募集

石川県立美術館では、パソコンで、エクセルを使った入力作業が可能なボランティアの方を募集しています。主に平日の日中に美術館へ来て作業していただくこととなります。ご興味のある方は、美術館普及課までご連絡ください。

電話：〇七六一二三一七五八〇

8月の行事予定

| | |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1日(木)～ 12日(月・振) | ■キッズ・プログラム体験講座「顔をみつけて、パチリ！」 まわりや街中で、顔に見えるものの写真を撮影しコメントとともに美術館公式ラインアカウントに投稿。 みんなの見つけた「顔」を館内に掲示します。 |
| 3日(土) | ■キッズ・プログラム鑑賞講座「かお・力オ・顔を楽しくかこう」 13時30分～15時 2階展示室 参加無料 展示を鑑賞後、いろいろな顔をかいてみよう。 対象：小学生親子 |
| 5日(月) | ■キッズ・プログラム体験講座「ひきもの体験 おわんを作ろう」 ①10時 ②11時 ③13時30分 ④14時30分 ⑤15時30分 講義室 ロクロと刃物を使って、親子でひとつのおわんを作ります。 対象：小学4～6年生親子20名 参加費：二千五百円 要申込(7月26日締切) |
| 7日(水) | ■キッズ・プログラム体験講座「おしゃべり顔図鑑」 13時30分～16時 2階展示室 参加費ひとり百円 飛び出す絵本の仕組みを使って動く顔を作ろう。 対象：小学生親子十五組 要申込(7月26日締切) |
| 9日(金) | ■キッズ・プログラム「子ども一日学芸員」 9時30分～15時30分 参加無料 美術館で働く「学芸員」ってどんな人？作品の楽しみ方も学びます。 対象：小学4～6年生親子5組 要申込(7月26日締切) |

※キッズ・プログラムの詳細は前号をご覧ください。

会期：令和元年8月31日(土)～10月7日(月) 会期中無休



重文《両絵和歌の浦図見台》伝清水九兵衛



重文《色絵雌雄香炉》野々村仁清



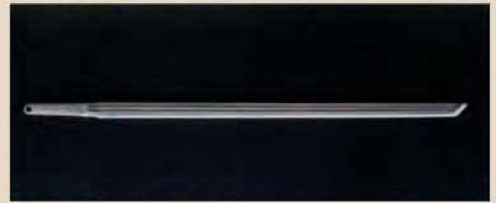
重文《西湖図》秋月等観



松田権六《蓬萊之棚》



富本憲吉《色絵更紗文蓋付飾壺》



隅谷正峯《直刀 七星刻写》



西山英雄《火焰山》



宮本三郎《熟蕨夢》



吉田三郎《山羊を飼う老人》

次回の展覧会

令和元年8月31日(土)
～10月7日(月)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

前田家の名宝Ⅱ

よみがえった文化財
—修復工場の修復実績—

第3～9展示室

石川の美術
美術館創設60年のあゆみ
【古美術、近現代絵画・彫刻・版画、近現代工芸】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

8月5日は第1月曜により

コレクション展示室無料の日

8月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

8月の休館日は
27日(火)～30日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 株主

石川県立美術館だより
第430号(毎月発行)
2019年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.shibipref.jshikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。